

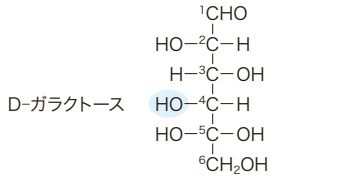
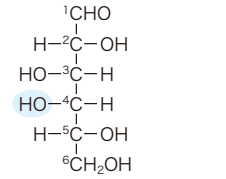
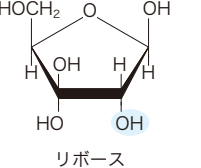
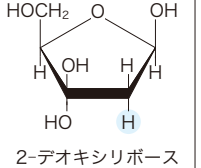
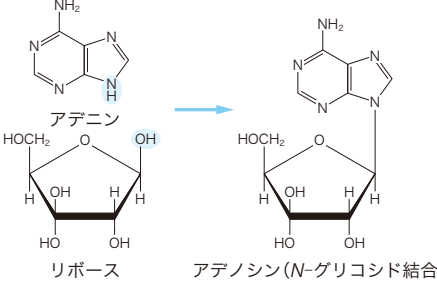
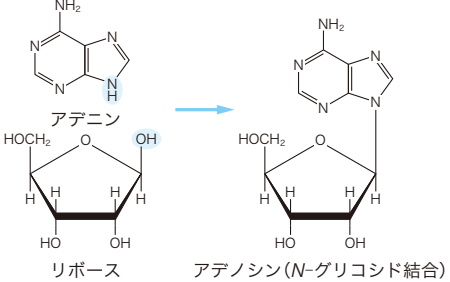
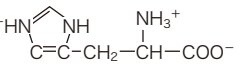
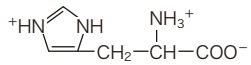


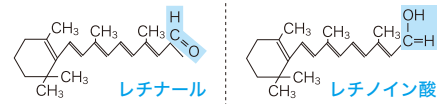
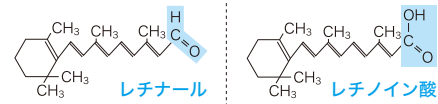
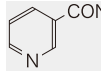
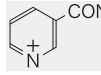
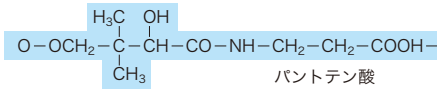
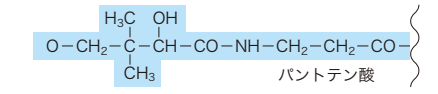
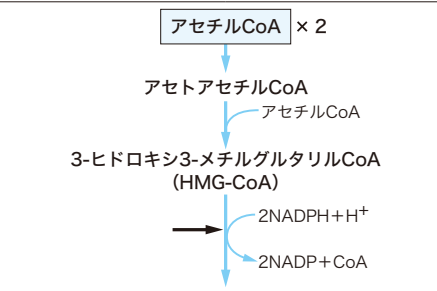
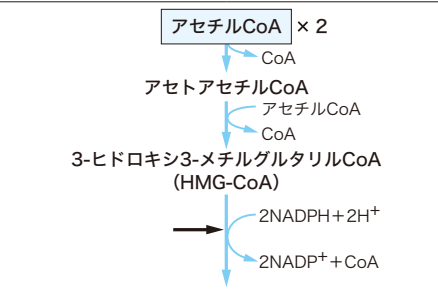
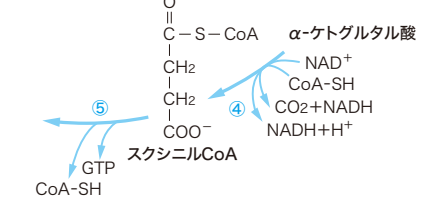
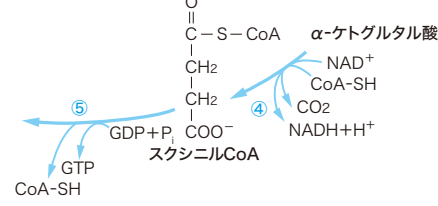
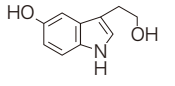
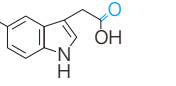
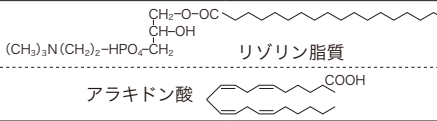
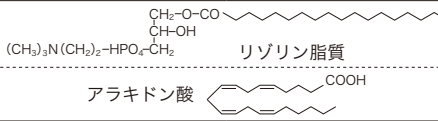
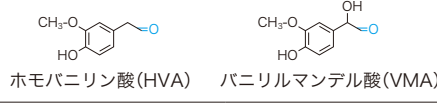
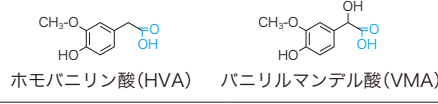


頁	誤	正										
4 Support	二重結合 	二重結合 										
7 下から2行目	$\beta 2 \rightarrow 1$ -グリコシド	$\beta 2 \rightarrow 6$ -グリコシド										
7 Support 上から10行目	β -D-グルコース	β -D-フルクトース										
8 上から12行目	酢酸の解離度は <u>0.001</u> で、0.1Mの弱酸である。	一方、0.1M酢酸の解離度は <u>0.01</u> で、弱酸である。										
9 Support に追加		<p>解離度 (α) $= [\text{CH}_3\text{COO}^-] / [\text{CH}_3\text{COOH}] + [\text{CH}_3\text{COO}^-]$ 解離定数 (K_a) $= [\text{CH}_3\text{COO}^-][\text{H}^+] / [\text{CH}_3\text{COOH}]$ $= 1.8 \times 10^{-5}$</p> <table border="1" data-bbox="971 318 1146 478"> <thead> <tr> <th>酢酸(M)</th> <th>解離度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0.0042</td> </tr> <tr> <td>0.1</td> <td>0.013</td> </tr> <tr> <td>0.01</td> <td>0.042</td> </tr> <tr> <td>0.001</td> <td>0.134</td> </tr> </tbody> </table>	酢酸(M)	解離度	1	0.0042	0.1	0.013	0.01	0.042	0.001	0.134
酢酸(M)	解離度											
1	0.0042											
0.1	0.013											
0.01	0.042											
0.001	0.134											
9 表 1-2		唾液 6.6 を牛乳 6.8 の下に移動										
11 図 2-3												
13 図 2-5	 リボース	 2-デオキシリボース										
13 図 2-9	 リボース アデニン	 リボース アデニン										
18 下から10行目	1個の脂肪酸がエステル結合したものの	1個の脂肪酸がアミド結合したものの										
23 表 2-4 最下段	ヒスチジンの構造 	ヒスチジンの構造 										
26 下から10行目	3,6アミノ酸残基	3,6アミノ酸残基										
26 下から3行目	アミノ酸残基同士の相互作用などにより	アミノ酸残基同士の相互作用 (図 2-26) などにより										
27 下から2行目	サブユニットという (図 2-27).	サブユニットという (図 2-28).										
30 下から15行目	イオンと水結合を形成するため	イオンと水素結合を形成するため										
34 Support	ヘモシテリン	ヘモジテリン										
37 図 3-2	右端の酵素の色 	 ※酵素は変化しない										
39 表 3-1 EC4の例	カタラーゼ、カルボキシラーゼ	カルボキシラーゼ										
42 図 3-8	$\begin{array}{c} \text{E} + \text{S} \cdot \text{ES} \rightarrow \text{E} + \text{P} \\ + \\ \\ \cdot \\ \text{EI} \end{array}$ a: 競合阻害機構モデル	$\begin{array}{c} \text{E} + \text{S} \cdot \text{ES} \rightarrow \text{E} + \text{P} \\ + \\ \\ \cdot \\ \text{EIS} \end{array}$ c: 不競合阻害機構モデル										

44 Support 上から12行目	CTP (シチジン 3 リン酸)	CTP (シチジン三リン酸)
47 図 3-12	 レチナール レチノイン酸	 レチナール レチノイン酸
53 図 3-18	 ニコチンアミド	 ニコチンアミド
53 図 3-19	 パントテン酸	 パントテン酸
65 図 4-9	ADP + p _i	ADP + P _i
87 図 4-27		
93 図 4-31		
99 Support 下から2行目	鉄イオンに背位結合している	鉄イオンに配位結合している
104 下から14行目	RNAプライマーがRNAプライマーゼから合成され、	RNAプライマーがプライマーゼから合成され、
105 図 5-9 ④	RNAプライマーを合成するRNAプライマーゼ	RNAプライマーを合成するプライマーゼ
113 表 5-2	真核生物の細胞の大きさ 10~10 μm	真核生物の細胞の大きさ 10~100 μm
159 表 7-1	ペプチド (タンパク質) 膵臓に追加	ホルモン名: ソマトスタチン 主な標的器官: 膵臓 主な作用: インスリン、グルカゴンの分泌抑制, 消化管からの栄養素吸収抑制
161 図 7-8	プロゲステロン (黄体ホルモン) コルチコステロン (グルココルチコイド, コルチゾール) アルドステロン (ミネラルコルチコイド) エストラジオール (エストロゲン)	黄体ホルモン (プロゲステロン) グルココルチコイド (コルチゾール, コルチコステロン) ミネラルコルチコイド (アルドステロン) エストロゲン (エストラジオール)
173 図 7-18	5-ヒドロキシインドール酢酸 (5-HIAA) 	5-ヒドロキシインドール酢酸 (5-HIAA) 
175 図 7-20	図 7-20 プラジキニンの生成と失活 ハーゲマン因子	図 7-20 カリジンの生成と失活 プラスミノゲン
177 図 7-21	 リゾリン脂質 アラキドン酸	 リゾリン脂質 アラキドン酸
179 図 7-23	 ホモバニリン酸 (HVA) バニリルマンデル酸 (VMA)	 ホモバニリン酸 (HVA) バニリルマンデル酸 (VMA)
179 図 7-24	アセチルコリン $\text{CH}_3\text{CO}-\text{O}(\text{CH}_2)_2\text{N}^+(\text{CH}_3)_6$	アセチルコリン $\text{CH}_3\text{CO}-\text{O}(\text{CH}_2)_2\text{N}^+(\text{CH}_3)_3$
254 下から12行目	形成後、時間を経たブランクでは	形成後、時間を経たベリクルでは
271 図 12-8	$\text{PH} < 6.2 \quad 6\text{CaHPO}_4 + 4\text{Ca}^{2+} + \text{H}_2\text{O}$	$\text{PH} < 6.2 \quad 6\text{CaHPO}_4 + 4\text{Ca}^{2+} + 2\text{H}_2\text{O}$